

HP OpenView Performance Insight

NNM Event and Availability Report Pack ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン : 1.0

Reporting and Network Solutions 7.0



2005 年 6 月

© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。
3. 当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本製品パッケージとして提供した本書、**CD-ROM**などの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

All rights are reserved.

Restricted Rights Legend.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause in DFARS 252.227-7013.

Hewlett-Packard Company

United States of America

Rights for non-DOD U.S. Government Departments and Agencies are as set forth in FAR 52.227-19(c)(1,2).

Copyright Notices

© Copyright 2004-2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P., all rights reserved.

Trademark Notices

OpenView は、Hewlett-Packard Company の米国の登録商標です。

Java™ は、米国 Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Oracle® は、米国 Oracle Corporation, Redwood City, California の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Windows® および Windows NT® は、米国 Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

原典

本書は『*HP OpenView Performance Insight NNM Event and Availability Report Pack User Guide Software Version: 1.0 Reporting and Network Solutions 7.0*』 Manufacturing Part No. none (November 2004) を翻訳したものです。

サポート

次の HP OpenView の Web サイトを参照してください。

<http://openview.hp.com/> (英語)

<http://www.hp.com/jp/openview/> (日本語)

これらのサイトには、HP OpenView の提供する製品、サービス、サポートについてのお問い合わせ先や詳細が掲載されています。日本語サポートサイトを表示するには、上記英語版サイトから [**サポート**] をクリックし、[**Software Support Online**] をクリックしてください。サポートサイトでは、次のことが可能です。

- 関心のあるドキュメントを検索する
- ソフトウェアパッチを探す
- サポートケースを登録 / トラッキングする
- サポート契約を管理する
- HP サポートの問い合わせ先を調べる
- 他のお客様とのディスカッションに参加する
- ソフトウェアトレーニングに登録する

目次

第 1 章	概要	7
	NNM Events and Availability	7
	フォルダーとレポート	8
	レポートのカスタマイズ方法	9
	追加情報の入手先	10
第 2 章	パッケージのインストール	13
	NNM と OVPI の統合	13
	OVPI に関連する前提条件.....	13
	NNM Event and Availability のインストール	14
	レポート表示のオプション	15
	パッケージの削除	16
第 3 章	NNM 管理ステーションの準備	17
	プロパティの追加と変更	17
	NNM での OVI の HTTP ポート番号の変更.....	26
	ノード情報またはカテゴリ情報の同期	26
	OV NNM イベントデータツールの変更	26
	収集エラーのチェック	27
第 4 章	分散システム	29
	中央サーバーの設定.....	29
	サテライトサーバーの設定	30
第 5 章	10 個のサンプルレポート	31
索引		45

概要

本章では、次の項目について説明します。

- **NNM Events and Availability**
- フォルダーとレポート
- レポートのカスタマイズ方法
- 追加情報の入手先

NNM Events and Availability

NNM Event and Availability Report Pack は、NNM ステーションから収集されたイベントおよびダウンタイムのデータの傾向分析を提供します。NNM は以下の属性を使用してイベントを定義します。

- カテゴリ
- 重要度
- デバイス
- デバイスのタイプ
- ベンダー
- カスタマ

NNM Event and Availability Report Pack を使用すると、収集されたイベントおよびダウンタイムに関するデータを表示できるため、ネットワーク管理業務に役立ちます。特定のデバイスや特定のカスタマについて、可用性が向上しているか、それとも低下しているかを確認できます。アラームカテゴリ別でアラームの発生件数を表示したり、アラームの発生傾向を折れ線グラフで表示します。また、重要度別でアラームの発生件数を表示したり、アラームの発生傾向を折れ線グラフで表示します。さらに、各アラームカテゴリの大半のアラームが発生しているデバイスを特定できます。

フォルダーとレポート

NNM Event and Availability をインストールすると、OVPI は NNM_Report ディレクトリを作成します。このディレクトリには次の 2 つのサブディレクトリがあります。

- Availability
- Event

Availability ディレクトリには以下のレポートが含まれています。

- 詳細な可用性
- 可用性：カスタマ別予測
- 可用性：ベンダー別予測
- 可用性：SLA

Event ディレクトリには、以下のサブディレクトリがあります。

- Category
- Severity
- Consolidated

Event ディレクトリ直下

Event ディレクトリ直下には以下のレポートが含まれています。

- カスタマ別イベントサマリー
- デバイスタイプ別イベントサマリー
- NNM ステーション別イベントサマリー
- ベンダー別イベントサマリー
- カスタマ別エグゼクティブサマリー
- ベンダー別エグゼクティブサマリー
- カテゴリ別予測

Category

Category ディレクトリには以下のレポートが含まれています。

- カテゴリとデバイス別 NNM イベント
- カテゴリとデバイスタイプ別 NNM イベント
- カテゴリと重要度別 NNM イベント
- カテゴリとベンダー別 NNM イベント

Severity

Severity ディレクトリには以下のレポートが含まれています。

- 重要度とカテゴリ別 NNM イベント
- 重要度およびデバイス別の NNM イベントサマリー
- 重要度およびデバイスタイプ別の NNM イベントサマリー
- 重要度およびベンダー別の NNM イベントサマリー

Consolidated

Consolidated ディレクトリには以下のレポートが含まれています。

- カテゴリ別 NNM イベント
- 重要度別 NNM イベント
- カテゴリ別エグゼクティブサマリー
- 重要度別エグゼクティブサマリー
- ホットスポットレポート

レポートのカスタマイズ方法

レポートの内容のカスタマイズは、グループフィルターの適用、パラメータの編集、テーブルとグラフの編集、カスタマのインポートによって行うことができます。グループフィルターは、カスタマ固有のレポートを生成する必要があるサービスプロバイダ向けに設計されています。テーブル、グラフ、またはパラメータを編集した場合、レポートを一時的に変更することになり、誰でもこのような変更を加えることができます。

グループフィルター

カスタマとレポートを共有したり、自社内の各部門に部門ごとのパフォーマンスデータを見せたりする場合、1件のカスタマに限定されたデータを持つ、カスタマ固有のレポートが必要です。カスタマ固有のレポートを作成するには、次の手順を実行します。

- **Common Property Tables 3.0** を使用して、カスタムプロパティ情報 (カスタマ名とデバイスの場所) をインポートする
- 特定のカスタマに関連のある全ユーザーのグループアカウントを作成する
- そのグループアカウント用のグループフィルターを作成する

グループアカウント用フィルターの作成の詳細は、『*Performance Insight 5.0 管理ガイド*』を参照してください。

パラメータの編集

パラメータの編集により、見る必要のないデータを除外する制約を適用できます。NNM Event and Availability Report Pack では、以下のパラメータが使用できます。

- Category
- Category ID

- Customer
- Customer ID
- Device
- Device Type
- NNM Station
- Severity
- Severity ID
- Vendor

レポートビューアを使用している場合は、以下の手順に従ってパラメータを編集してください。

- 1 メニューバーから [編集] → [パラメータ値] を選択します。
- 2 [パラメータ値の変更] ウィンドウが開いたら、[現在の値] フィールドをクリックします。
- 3 新しい値を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

レポートをリモートで表示している場合は、以下の手順を実行します。

- 1 レポート右下の [編集] アイコンをクリックします。
- 2 [パラメータの編集] ウィンドウが開いたら、該当するフィールドに制約を入力します。
- 3 [送信] をクリックします。

追加情報の入手先

NNM Event and Availability Report Pack のデモパッケージには、パッケージ内のすべてのレポートのサンプルが含まれます。デモパッケージが利用可能で、完全なレポートの表示内容を見たい場合、デモパッケージをインストールしてください。デモパッケージの最新の拡張機能およびデモパッケージに影響のある既知の問題については、『*NNM Event and Availability Report Pack 1.0 Release Statement*』（英語）を参照してください。また、次のドキュメントも参考にしてください。

- 『*Common Property Tables 3.5 ユーザーガイド*』
- 『*ネットワークノードマネージャ データ分析 / レポートガイド*』
- 『*HP OpenView ネットワークノードマネージャ ネットワーク管理ガイド*』

中心となる製品である OVPI のマニュアルと、OVPI 上で動作するレポート機能についてのマニュアルは、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.hp.com/managementsoftware> (英語)

[Support]>[製品マニュアル(英語)]を選択すると、「Product manuals search」ページ(英語)が表示されます。OVPI のマニュアルは [1. Product] で [Performance Insight] を選択すると表示されます。また、レポートパッケージ、データパイプ、および NNM SPI のマニュアルは、

[Reporting and Network Solutions] を選択すると表示されます。

日本語のマニュアルは以下の URL から入手できます。

<http://www.jp.hp.com/doc/manual/openview/index.html>

[**Reporting and Network Solutions**]の下に表示される各種マニュアルには、発行年月が示されています。ユーザーガイドが改訂されて新しいものが公開されると、ソフトウェアのバージョン番号が変わらない場合でも、発行年月が変わります。改訂したマニュアルは定期的に公開されるため、このサイトを見て更新されていないかを確認して、最新版でない可能性のある古いPDFを参照するのは避けてください。

パッケージのインストール

本章では、次の項目について説明します。

- NNM と OVPI の統合
- NNM Event and Availability のインストール
- レポート表示のオプション
- パッケージの削除

NNM と OVPI の統合

NNM サーバーが OVPI サーバーに統合されていなければ、**NNM Event and Availability Report Pack** は機能しません。サーバーがまだ統合されていない場合は、ここで行ってください。NNM と OVPI を統合するには、**NNM/Performance Insight Integration Module** をインストールします。このモジュールには、NNM サーバー用のコンポーネントと OVPI サーバー用のコンポーネントが含まれています。詳細は、『*NNM/Performance Insight Integration Module 2.0 User Guide*』（英語）を参照してください。

オペレーティングシステムが **Windows** の場合、**Integration Module** をインストールすると、イベントデータを NNM から OVPI に移動する **ICO_RNS** という **Windows** サービスがインストールされます。インストールプロセスでこのサービスが作成され、スタートアップの種類が「**自動**」に設定されますが、実際にはサービスは自動的に開始されません。初回実行時にこのサービスを手動で開始する必要があります。その後は、マシンの再起動時に **ICO_RNS** が自動的に開始されます。

▶ オペレーティングシステムが **UNIX** の場合は、初回実行時に手動でサービスを開始する必要はありません。

OVPI に関連する前提条件

NNM Event and Availability Report Pack をインストールする前に、OVPI サーバーは以下を必要とします。

- OVPI 5.0

- OVPI 5.0 に提供されているすべてのサービスパック
- Common Property Tables 3.0 以降

NNM Event and Availability のインストール

レポートパックをインストールするには以下のタスクを実行します。

- タスク 1: OVPI Timer を停止し、RNS 7.0 CD からレポートパックを抽出する
- タスク 2: 必要があれば、Common Property Tables をアップグレードする
- タスク 3: NNM Event and Availability Report Pack をインストールする

タスク 1: OVPI Timer を停止し、RNS 7.0 CD から OVPI パッケージを抽出する

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は、**root** でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。


Windows: [コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを実行します。

HP-UX: `sh /sbin/ovpi_timer stop`

Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer stop`

- 3 RNS 7.0 CD を挿入します。次のいずれかを実行します。
 - *Windows* で、自動実行が無効になっている場合は `setup.bat` コマンドを実行します。自動実行が有効になっている場合は、[メインメニュー]が表示されます。
 - *UNIX* の場合、CD が自動的にマウントされない場合は CD を手動でマウントし、`setup` コマンドを実行します。
- 4 選択フィールドに **1** と入力して OVPI レポートパックを選択し、[Enter] を押します。インストールスクリプトが進捗バーを表示します。抽出処理が終わると、インストールスクリプトはパッケージマネージャを起動します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開く。

 システムの **Packages** ディレクトリに移動すると、レポートパックの親ディレクトリの下に以下のディレクトリが表示されます。

- **NNM_Event.ap**
- **NNM_Event_Demo.ap**

デモパッケージのインストールはオプションです。デモパッケージは単体でインストールすることも、レポートパックと一緒にインストールすることもできます。

タスク 2: Common Property Tables のアップグレード

Common Property Tables の古いバージョンを使用している場合は、Common Property Tables 3.0 以降にアップグレードします。Common Property Tables のアップグレードパッケージのインストール方法は他のアップグレードパッケージのインストールと同じです。このパッケージと

他のパッケージを同時にインストールすることはできません。Common Property Tables のアップグレードパッケージのみインストールしてください。パッケージマネージャによりインストールの完了が通知されたら、[完了]をクリックして[管理コンソール]に戻ります。

タスク 3: NNM Event and Availability Report Pack 1.0 のインストール

- 1 パッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの[ようこそ]ウィンドウが開きます。
- 2 [次へ]をクリックします。[OVPI パッケージの場所]ウィンドウが開きます。
- 3 [インストール]を選択します。デフォルトのインストールディレクトリを受け入れるか、必要であれば参照機能を使用して別のディレクトリを選択します。
- 4 [次へ]をクリックします。[レポートの配布]ウィンドウが開きます。[レポートの配布]のデフォルトの設定を受け入れます。また、同じウィンドウ内のアプリケーションサーバー名とポートのデフォルト値も受け入れます。
- 5 OVPI アプリケーションサーバー用のユーザー名とパスワードを入力します。
- 6 [次へ]をクリックします。[パッケージの選択]ウィンドウが開きます。
- 7 次のパッケージの横にあるチェックボックスを選択します。

CommonPropertyTables 3.5

NNM_Event 1.0

NNM_Event_Demo 1.0

- 8 [次へ]をクリックします。[タイプの検出]ウィンドウが開きます。
- 9 パッケージのインストール直後に[タイプの検出]を実行するには、[タイプの検出]を選択して[次へ]をクリックします。[概要]ウィンドウが開きます。
- 10 [インストール]をクリックします。[インストールの進捗状況]ウィンドウが開き、インストールプロセスが開始されます。インストールプロセスが完了すると、インストール完了メッセージが表示されます。
- 11 [完了]をクリックします。
- 12 OVPI Timer を再起動します。

レポート表示のオプション

Web ブラウザでレポートを見るには、まずレポートを配布しなければなりません。インストール時に[レポートの配布]オプションを有効にしたため、このパッケージのレポートは配布され、リモートで表示できます。

ユーザーがどのような方法でレポートを表示できるかは、OVPI のインストール方法によって異なります。クライアントコンポーネントがユーザーのシステムにインストールされている場合、ユーザーは[レポートビューア]、[レポートビルダ]、および[管理コンソール]にアクセスすることができます。クライアントコンポーネントがユーザーのシステムにインストールされていない場合には、ユーザーは Web 経由でしかレポートを表示できません。

クライアントコンポーネントの詳細は、『*Performance Insight* インストールガイド』を参照してください。レポートの配布、表示、および配布解除の詳細は、『*Performance Insight* レポートの作成および表示ガイド』を参照してください。

パッケージの削除

NNM Event and Availability をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

- 1 システムにログインします。UNIX システムでは *trendadm* でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。
- 3 パッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開きます。
- 4 [**次へ**] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 5 [**アンインストール**] をクリックします。
- 6 [**次へ**] をクリックします。[OVPI レポートの配布解除] ウィンドウが開きます。
- 7 NNM Event Report Pack のレポートがこのサーバーから配布された場合は、[レポートの配布解除]、[OVPI アプリケーションサーバー名]、および [ポート] のデフォルト値を受け入れます。その他の場合は、チェックボックスを選択解除して手順 9 に進みます。
- 8 OVPI アプリケーションサーバー用のユーザー名とパスワードを入力します。
- 9 [**次へ**] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 10 次のパッケージの横にあるチェックボックスをクリックします。
NNM_Event 1.0
NNM_Event_Demo 1.0
- 11 [**OK**] をクリックします。
- 12 [**次へ**] をクリックします。[概要] ウィンドウが開きます。
- 13 [**アンインストール**] をクリックします。[アンインストールの進捗状況] ウィンドウが開き、削除プロセスが開始されます。アンインストール処理が完了すると、パッケージの削除完了メッセージが表示されます。
- 14 [**完了**] をクリックして [管理コンソール] に戻ります。
- 15 OVPI Timer を再起動します。

NNM 管理ステーションの準備

本章では、次の項目について説明します。

- プロパティの追加と変更
 - 一括インポートを使用する方法
 - NNM Event Report Pack に付属のフォームを使用する方法
- NNM での OVI の HTTP ポート番号の変更
- ノード情報またはカテゴリ情報の同期
- OV NNM イベントデータツールの変更
- 収集エラーのチェック

イベントおよび可用性データの収集には NNM ステーションのリストが必要です。このリストを作成するには、一括インポートと OVPI フォームを使用する 2 つの方法があります。

プロパティの追加と変更

プロパティ情報には、以下の情報が利用されます。

- NNM Event Report Pack に付属のフォーム
- Common Property Tables のバッチモードによるプロパティのインポート
- Common Property Tables (デバイス、カスタマ、ベンダー)
- Category List Table
- NNM List Table
- 「NNM リストの追加または更新」 フォーム
- 「カテゴリ情報の追加または更新」 フォーム
- ネットワークからの自動供給

特定のデバイスまたは特定のインタフェースに関連付けられているカスタマがある場合、あるいは、特定のデバイスに関連付けられているベンダーがある場合は、Common Property Tables を使用してこの情報をインポートしてください。

一括インポート

一括インポートを使用して NNM ステーションのリストをインポートするには、以下のタスクを実行します。

- タスク 1: NNM ステーションリストファイルを作成する
- タスク 2: NNM ステーションリストファイルをインポートする
- タスク 3: OVPI データを収集する

タスク 1: NNM ステーションリストファイルを作成する

NNM ステーションの一括インポートをする場合、または収集のための NNM ステーションセットが必要な場合は、\$DPIPE_HOME/data/PropertyData/NNM_Event/ ディレクトリに、プロパティパラメータファイルの NNM_List.dat を作成します。1 つの NNM ステーションをインポートするには、19 ページの「フォームの使用」に説明されているフォームを使用します。

データのフォーマットは次のとおりです。

```
<nnm_station_1><tab><ovi_port_number>
<nnm_station_n-1><tab><ovi_port_number>
<nnm_station_n><tab><ovi_port_number>
```

例:

```
nnm1.hp.com 8092
nnm2.hp.com 8092
nnmn.hp.com 8092
```

デフォルトの OVI ポート番号は 8092 です。



OVI の CommandResponder pluglet のポート番号を変更した場合のみ、このポート番号を変更してください。

タスク 2: NNM ステーションリストをインポートする

NNM ステーションリストをインポートするには、NNM List Importer ツールを実行します。

```
$DPIPE_HOME/bin/trend_proc -f $DPIPE_HOME/scripts/NNM_Event_import_nnm.pro
```

このツールは、NNM_List.dat を OVPI データベースにインポートします。インポートされたリストは、データ収集が可能です。



エラーは \$DPIPE_HOME/log/trend.log にログ記録されます。

タスク 3: データ収集

NNM ステーションリストの準備ができれば、収集の準備は完了です。初回の収集では、データ収集ツールにより以下が実行されます。

- 1 デバイスタイプ、ベンダー、およびカテゴリ情報により NNM からノードを取得します。
- 2 NNM ステーションから過去 2 日間のデータまたは NNM で入手可能なデータのどちらか小さい方を取得します。

3 カテゴリリストを OVPI に配置します。

- ▶ デフォルトでは、データ収集は 1 時間ごとに行われます。NNM によって集約されるデータの周期 (ポーリング粒度) は 15 分です。

フォームの使用

この項では、以下のフォームについて説明します。

- NNM リストの追加または更新
- NNM ステーションの削除
- カテゴリ情報の追加または更新
- アラームカテゴリの削除
- 可用性しきい値の更新

これらのフォームを使用して、プロパティデータを作成、更新または削除します。

フォームを起動するには、[管理コンソール] ウィンドウの左側にあるパネルの [オブジェクト] アイコンをクリックします。[オブジェクト/プロパティの管理] ビューが開きます。オブジェクトマネージャにオブジェクトの一覧が表示されます。表示されるオブジェクトの種類は、オブジェクトマネージャのどのビューを開いているかによって異なります。デフォルトのビューは [デバイス] ビューで、デバイスの一覧が表示されます。ビューを変更するには、[ビュー] > [ビューの変更] を選択し、ポップアップウィンドウから別のビューを選択します。更新対象のオブジェクトの種類が表示されたら、更新する特定のオブジェクトを選択します。

オブジェクトを選択すると、右側のウィンドウに [オブジェクト固有のタスク] が表示されます。ダブルクリックしてフォームを開きます。変更を保存するには [適用] を、変更を保存してフォームを閉じるには [OK] を、変更を保存せずにフォームを閉じるには [キャンセル] をクリックします。

NNM リストの追加または更新

以下を追加または変更するには、[NNM リストの追加または更新] フォームを使用します。

- OVPI ポート番号
- ポーリング周期
- ポーリング粒度
- HTTP タイムアウト

以下の手順に従って、NNM ステーションを更新します。

- 1 [管理コンソール] を起動します。
- 2 [オブジェクト] アイコンをクリックします。[NNM リストの追加または更新] フォームが [一般的なタスク] の下に表示されます。更新する NNM ステーションに移動して、[NNM リストの追加または更新] フォームをダブルクリックします。
- 3 変更するデータを含む行をハイライトします。

- 必要に応じて、[ポーリング間隔]を変更し、`$DPIPE_HOME/lib/trendtimer.sched`の次の行を変更します。

```
01:00 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f {DPIPE_HOME}/scripts/NNM_Event.pro
```

たとえば、[ポーリング間隔]が180分の場合、この行を次のように変更します。

```
03:00- - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f {DPIPE_HOME}/scripts/NNM_Event.pro
```

[ポーリング粒度]は期間単位を[ポーリング間隔]で割った結果の値です。特定のポーリング周期について、収集されたイベントデータは、より細かい期間単位(「ポーリング粒度」という)で集約することができます。たとえば、ポーリング周期が60分の場合、ポーリング粒度は30、60、180分などの値に設定できます。

- 変更を保存するには[適用]を、変更を保存してフォームを閉じるには[OK]を、変更を保存せずにフォームを閉じるには[キャンセル]をクリックします。

以下の手順に従って、新規NNMステーションを追加します。

- 行を選択します。
- [NNMステーション]フィールドにNNMステーション名を入力します。その他の値を必要に応じて変更します。

- 3 変更を保存するには[適用]を、変更を保存してフォームを閉じるには[OK]を、変更を保存せずにフォームを閉じるには[キャンセル]をクリックします。

NNM イベントレポート

NNM リストの追加または更新

イベントデータおよび可用性データを収集するには、NNM ステーションのリストが必要です。次のテーブルは、OVPI データの収集用に設定された NNM ステーションの一覧です。このフォームを使用して、OVPI データの収集用に設定された NNM ステーションを新規追加または更新できます。

NNMステーション	OVI ポート	ポーリング周期	ポーリング粒度	HTTP タイムアウト
default	8,092	60	15	600

NNMステーション: default

OVI ポート番号: 8,092

ポーリング周期 (分): 60

ポーリング粒度 (分): 15

HTTP タイムアウト (秒): 600

OK 適用 キャンセル

NNM ステーションの削除

以下の手順に従って、1つの NNM ステーションを削除します。

- 1 [管理コンソール]を起動します。
- 2 [オブジェクト/プロパティの管理]ビューが開きます。[ビュー]>[ビューの変更]を選択し、ポップアップウィンドウを使用して[OV NNM]ビューを選択します。NNM ステーションの一覧が表示されます。
- 3 削除する NNM ステーションを選択します。
- 4 [オブジェクト固有のタスク]の下の[NNM ステーションの削除]フォームをダブルクリックします。フォームが開き、OVPI データ収集用に設定された NNM ステーションが表示されます。

- 5 削除する NNM ステーションを含む行をハイライトします。

➤ NNM ステーションを削除すると、その NNM ステーションはデータの収集を中止します。既存のデータは使用可能です。

- 6 NNM ステーションを削除するには [適用] を、変更を保存してフォームを閉じるには [OK] を、変更を保存せずにフォームを閉じるには [キャンセル] をクリックします。

NNM イベントレポート

NNM ステーションの削除

イベントデータおよび可用性データを収集するには、NNM ステーションのリストが必要です。次のテーブルは、OVPI データの収集用に設定された NNM ステーションの一覧です。このフォームを使用して、選択された NNM ステーションを OVPI による収集から削除できます。

NNMステーション	OVI ポート	HTTP タイムアウト
default	8,092	600

NNMステーション: default

OVI ポート番号: 8,092

HTTP タイムアウト (秒): 600

OK 適用 キャンセル

カテゴリ情報の追加または更新

以下の手順に従って、NNM ステーションの新規アラームカテゴリを更新します。

- 1 [管理コンソール] を起動します。
- 2 [オブジェクト] をクリックします。[カテゴリ情報の追加または更新] は [全般的なタスク] の下に表示されます。フォームをダブルクリックします。
- 3 NNM ステーションに移動し、フォームをダブルクリックします。フォームが開き、カテゴリ情報が表示されます。

- 4 変更するデータを含む行をハイライトします。
- 5 変更を保存するには[適用]を、変更を保存してフォームを閉じるには[OK]を、変更を保存せずにフォームを閉じるには[キャンセル]をクリックします。

以下の手順に従って、新規 NNM ステーションを追加します。

- 1 行を選択します。
- 2 新しい[カテゴリ ID]および[カテゴリ名]を入力します。
- 3 変更を保存する場合は[適用]を、変更を保存してフォームを閉じる場合は[OK]を、変更を保存せずにフォームを閉じる場合は[キャンセル]をクリックします。

NNM イベントレポート

カテゴリ情報の追加または更新

すべての NNM ステーションは、アラーム用のカテゴリリストを持っています。次のテーブルは、NNM ステーションとそのカテゴリリストの一覧です。このフォームを使用して、選択した NNM ステーション用のカテゴリリストを新規追加または更新できます。

NNMステーション	カテゴリ ID	カテゴリ名
default		

NNMステーション: default

カテゴリ ID:

カテゴリ名:

OK 適用 キャンセル

アラームカテゴリの削除

以下の手順に従って、NNM ステーションのカテゴリを削除します。

- 1 [管理コンソール]を起動します。

- 2 [オブジェクト/プロパティの管理]ビューが開きます。[ビュー]>[ビューの変更]を選択し、ポップアップウィンドウを使用して[OV NNM]ビューを選択します。NNM ステーションの一覧が表示されます。
- 3 削除する NNM ステーションを選択します。
- 4 [オブジェクト固有のタスク] の下の [アラームカテゴリの削除] フォームをダブルクリックします。フォームが開き、[NNM ステーション]、[カテゴリ ID]、および [カテゴリ名] が表示されます。
- 5 削除する行をハイライトします。
- 6 NNM ステーションのカテゴリを削除するには [適用] を、変更を保存してフォームを閉じるには [OK] を、変更を保存せずにフォームを閉じるには [キャンセル] をクリックします。

NNM イベントレポート

アラームカテゴリの削除

すべての NNM ステーションは、アラーム用のカテゴリリストを保持しています。次のテーブルは、NNM ステーションとそのカテゴリリストの一覧です。このフォームを使用して、NNM ステーション用のカテゴリを削除できます。

NNMステーション	カテゴリ ID	カテゴリ名
default		

NNMステーション: default

カテゴリ ID:

カテゴリ名:

OK 適用 キャンセル

可用性しきい値の更新


[可用性しきい値] (可用性の割合) 値は、[NNM ステーション]、[カスタマ]、[ベンダー] および [デバイスタイプ] に基づいています。しきい値はパフォーマンスの正常と異常の境界線です。この境界線を超えると、例外が記録されます。しきい値は個別の必要性に応じて簡単に変更できる、デフォルト値に設定されます。

以下の手順に従って、しきい値を変更します。

- 1 [管理コンソール](piadmin) を起動します。
- 2 [全般的なタスク]の下の[オブジェクト]をクリックすると、[可用性しきい値の更]フォームが表示されます。フォームをダブルクリックします。フォームが開き、[可用性しきい値]テーブルが表示されます。
- 3 変更する[可用性しきい値]を含む行をハイライトします。
- 4 変更を保存するには[適用]を、変更を保存してフォームを閉じるには[OK]を、変更を保存せずにフォームを閉じるには[キャンセル]をクリックします。

NNM イベントレポート

可用性しきい値の更新



可用性しきい値は、可用性パーセンテージのレベルです。この値を下回るどの値も、SLA 違反として扱われます。可用性しきい値は、NNM ステーション、カスタマ、ベンダー、デバイスタイプに基づいて設定できます。このフォームで、可用性しきい値を変更することができます。

NNMステーション	カスタマ	ベンダー	デバイスタイプ	可用性しきい値 (%)
All	All Customers	All	All	95.00
All	Customer Unassigned	Unknown	Unknown	95.00
ovpihpt@india.hp.com	Customer Unassigned	Unknown	Unknown	95.00
ovpint@india.hp.com	Customer Unassigned	Unknown	Unknown	95.00

NNMステーション	<input type="text" value="ovpihpt@india.hp.com"/>
カスタマID	<input type="text" value="2"/>
ベンダー	<input type="text" value="Unknown"/>
デバイスタイプ	<input type="text" value="Unknown"/>
可用性しきい値	<input type="text" value="95.00"/>

NNM での OVI の HTTP ポート番号の変更

ポート番号 8092 がすでに使用されている場合は、以下の手順に従ってポート番号を変更してください。

- 1 NNM で、以下に指定したファイルの `<serverPort>8092</serverPort>` パラメータを、新しい HTTP ポート番号を指定するよう変更します。

UNIX

```
$OV_INSTALL_DIR/conf/OVPI_INTEGRATION/ResponderProxyPluglet.config
```

Windows

```
%OV_INSTALL_DIR%/newconfig/OVPI_INTEGRATION/ResponderProxyPluglet.config
```

- 2 OVI CommandResponder pluglet を再起動します。OVI を開始または停止するには、以下のようになります。

UNIX

```
$OV_BIN/ICO_ctl.ovpl -s : OVI を停止する場合
```

```
$OV_BIN/ICO_ctl.ovpl -g : OVI を開始する場合
```

Windows

```
%OV_BIN%\ICO_ctl.ovpl -s : OVI を停止する場合
```

```
%OV_BIN%\ICO_ctl.ovpl -g : OVI を開始する場合
```

ノード情報またはカテゴリ情報の同期

すべての NNM ステーションのノード情報またはカテゴリ情報を同期するには、`get_nnm_aggevt` ツールを使用します。

- NNM Event Report Pack を NNM からの現在のノード情報で更新するには、以下のスクリプトを使用してノード情報を取得します。

```
$DPIPE_HOME/bin/perl $DPIPE_HOME/scripts/get_nnm_aggevt.pl -i
```

- アラームカテゴリは時間の経過とともに増大します。(例: 新規 RNS SPI をインストールした場合) NNM Event Report Pack を更新するには、以下のスクリプトを使用してノード情報を取得します。

```
$DPIPE_HOME/bin/perl $DPIPE_HOME/scripts/get_nnm_aggevt.pl -c
```

OV NNM イベントデータツールの変更

OV NNM では、以下のツールを使用してイベントデータを提供します。

- `ovdumpevents`: OVPI のデフォルトのデータ収集ツールです。
- `ovdwquery`: RDBMS に基づいています。

これらのツールの詳細は、『*HP OpenView ネットワークノードマネージャ ネットワーク管理ガイド*』を参照してください。

以下の手順に従って、ツールを `ovdwquery` に変更します。

- 1 `$DPIPE_HOME/lib` ディレクトリにアクセスします。
- 2 以下のエントリーを使用して `NNM_Event_Report.conf` という名前の設定ファイルを作成します。

AGG_TOOL, ovdwquery

次のポーリング周期では、OV NNM からイベントデータを取得するのにこのツールが使用されます。

以下の手順に従って、ツールを `ovdumpevents` に変更します。

- 1 `$DPIPE_HOME/lib` ディレクトリにアクセスします。
- 2 次のいずれかを実行します。
 - `NNM_Event_Report.conf` 設定ファイルを削除する
 - 上記の設定ファイルの `AGG_TOOL` エントリーを **AGG_TOOL, ovdumpevents** に変更する

収集エラーのチェック

以下のログファイルを順にチェックします。

- 1 OVPI では、すべての NNM ステーションの収集の詳細は `$DPIPE_HOME/log/trend.log` にログ記録されています。NNM ステーションからのイベントデータを収集するモジュールである、`get_nnm_aggevt.pl` を含むエントリーがないかどうかを調べます。
- 2 NNM では、収集の詳細およびエラー（発生した場合）は、以下にログ記録されます。
`$OV_TMP/OVPI/NNM_EVT_RP_*.log`

分散システム

NNM Event Report Pack を複数のサーバにわたる分散システムとして実行する場合は、中央サーバーと各サテライトサーバーを設定する必要があります。

中央サーバーの設定

中央サーバーを設定するには、次のタスクを行います。

- タスク 1: サテライトサーバー データベースとの接続をセットアップする
- タスク 2: trendcopy pull コマンドを設定し、trendtimer.sched のエントリーを変更する

タスク 1: サテライトサーバー データベースとの接続をセットアップする

- 1 [管理コンソール]を起動します。
- 2 左下の[システム]アイコンをクリックします。[システム/ネットワークの管理]ペインが開きます。
- 3 [データベース]フォルダーを右クリックします。プロンプトが出たら[データベースの追加]を選択します。[データベースの追加ウィザード]が開きます。
- 4 [次へ]をクリックします。
- 5 追加するデータベースのホスト名とポート番号を入力し、[次へ]をクリックします。
- 6 [概要]を確認します。データベースを追加するたびに手順 4 と 5 を繰り返します。
- 7 ここまでの手順が終了したら、[完了]をクリックします。

タスク 2: trendcopy の pull コマンドを設定し、trendtimer.sched のエントリーを変更する

- 1 次のファイルを開きます。
`$DPIPE_HOME/scripts/hourly_NNM_Event.pro`
`$DPIPE_HOME/scripts/hourly_NNM_Avail.pro`
- 2 trendcopy コマンドを、各コマンドに各サテライトサーバーの正しいサーバー名が含まれるように修正します。
- 3 必要に応じて、さらにコマンドを追加します。

- この手順はオプションです。インストールにより、中央サーバーで割合データを使用する必要がある場合は、`copy` コマンドの `SH_NNM_Event`、`SH_NNM_Avail` を `RNNM_Event`、`RNNM_Avail` に変更します。

▶ ポーリングしたデータを各サテライトサーバーから 1 時間ごとにコピーすると、サテライトサーバーと中央サーバーの間のトラフィックが増加し、中央サーバーの処理負荷が増大します。

- `NNM_Event.pro` は 1 時間ごとのプロセスファイルを呼び出し、`Event` および `Availability` の両方の要約データを収集します。`$DPIPE_HOME/lib/trendtimer.sched` ファイルを編集します。中央サーバーが 1 時間ごとの要約処理を始める前に、サテライトサーバーが 1 時間ごとの要約処理を確実に完了するように、開始時間を `1:00` から `1:00+20` に変更します。デフォルトでは、このプロセスは毎時ちょうどに開始されます。
- すべてのシステムクロックが同期されていることを確認します。リンクされたプロセスが複数のマシン上で実行される分散環境では、これは不可欠です。システムクロックが同期されていないと、これらのプロセスは正確な順序で実行されません。

サテライトサーバーの設定

次の手順に従って、サテライトサーバーを設定します。

- `$DPIPE_HOME/lib/trendtimer.sched` ファイルの以下のエントリをコメントアウトして以下の集約をオフにします。


```
24:00+03:00 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f {DPIPE_HOME}/scripts/daily_NNM_Event.pro
24:00+03:00 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f {DPIPE_HOME}/scripts/daily_NNM_Avail.pro
SU+24:00 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f {DPIPE_HOME}/scripts/weekly_NNM_Event.pro
MONTH1+24:00 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f {DPIPE_HOME}/scripts/monthly_NNM_Event.pro
MONTH1+24:00 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f {DPIPE_HOME}/scripts/monthly_NNM_Avail.pro
MONTH1+24:00 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f {DPIPE_HOME}/scripts/yearly_NNM_Avail.pro
```
- 以下の要約を除く、すべてのエントリをコメントアウトして、`hourly_NNM_Event.pro` を変更します。


```
{DPIPE_HOME}/bin/trend_sum -f {DPIPE_HOME}/scripts/hourly_NNM_Event.sum
```
- 各サテライトサーバーが、異なる `NNM` ステーションからデータを収集していることを確認してください。

10 個のサンプルレポート

この章では、以下のレポートのサンプルを紹介します。

- 1 詳細な可用性レポート
- 2 可用性：カスタマ別予測
- 3 可用性：SLA レポート
- 4 ベンダー別エグゼクティブサマリー
- 5 NNM ステーション別イベントサマリー
- 6 重要度別予測
- 7 ホットスポット：デバイス別トップ 20
- 8 カテゴリとデバイス別 NNM イベント
- 9 重要度とデバイス別 NNM イベント
- 10 重要度別エグゼクティブサマリー

サンプル 1: 詳細な可用性

選択したカスタマおよび選択したタイプのデバイスについての、ベンダーごとの日次、月次、年次の可用性情報。このレポートには、複数の NNM ステーションにまたがる可用性は表示されません。このレポートは、NNM ステーションレベルでデータを集約します。

最初に NNM ステーションを選択し、次にベンダー、カスタマ、およびデバイスタイプを選択します。選択フィールドの下に、以下の項目に対する統計情報が表示されます。

- 可用性
- MTTR
- 総停止時間
- MTBF
- 停止時間 (秒)

このレポートを使用して、特定の NNM ステーションによって管理されている特定のデバイスタイプの可用性が向上しているか、低下しているかを確認できます。

サンプル 2: 可用性 : カスタマ別予測

複数の NNM ステーションを使用している場合、このレポートはすべての NNM ステーションからのデータを集約し、データをカスタマレベルまでまとめます。カスタマを選択してから、すべてまたは特定のデバイスタイプのどちらかを選択できます。以下の項目について、ベースライン、F30、F60、および F90 の値が棒グラフで示されます。

- MTBF
- MTTR
- 可用性
- ダウンタイム

このレポートを使用して、選択したカスタマについて可用性のメトリックが向上するか、または低下するかを予測できます。

サンプル 3: 可用性 : SLA レポート

SLA 可用性のレポートは、複数の NNM ステーションのデータを集約します。このレポートは次の 4 つの情報を提供します。

- 特定のベンダー機器における平均的な動作状況 (可用性に関するしきい値違反の有無)
- 1 つのベンダー製の各種デバイスの動作状況 (しきい値違反の有無)
- 特定のカスタマが所有するデバイスの平均的な動作状況 (しきい値違反の有無)
- 特定のカスタマが所有する各種デバイスの動作状況 (しきい値違反の有無)

このレポートはダウンタイムの詳細と可用性の詳細の両方を調べます。実際の可用性と SLA の値 (可用性のしきい値) を比較し、実際のダウンタイムと SLA の値 (ダウンタイムのしきい値) を比較することができます。

サンプル 4: ベンダー別エグゼクティブサマリー

このレポートは、アラームカテゴリとアラーム重要度データを、ベンダーレベルでステーションごとに集約します。このレポートから以下を判定できます。

- 複数のアラームカテゴリにまたがるアラームの分布
- カテゴリ別のアラームの件数が増加しているか、それとも減少しているか
- 重要度レベルの分布
- 重要度レベル別のアラームの件数が増加しているか、それとも減少しているか

サンプル 5: NNM ステーション別イベントサマリー

このレポートはイベントの合計数をステーションごとに集約します。このレポートを使用して、各 NNM ステーションの合計数と、合計数が増加しているか、それとも減少しているかを把握できます。

サンプル 6: 重要度別予測

このレポートはアラーム重要度の予測を生成します。すべてのデバイスの重要度データをステーションごとに集約し、各重要度レベルのベースライン値を計算します。このベースライン値を **F30**、**F60**、**F90** と比較できます。このレポートを使用して、ベースライン期間で最も多い重要度レベルを調べ、各重要度レベルの将来の動向を計ることができます。

サンプル 7: ホットスポット : デバイス別トップ 20

このレポートは、各デバイスのイベントをステーションごとに集約します。このレポートを使用して、イベントの大半に関連するデバイスを見つけることができます。ステーションを選択してから重要度レベルを選択してください。グラフにはイベント件数の多い順から少ない順にランク付けされたデバイスの一覧が表示され、イベントの大半に関連する上位 **20** のデバイスのイベント統計情報を確認できます。

サンプル 8: カテゴリとデバイス別 NNM イベント

このレポートは、イベントカテゴリの統計情報をステーションごとに集約します。このレポートを使用して、1つのイベントカテゴリからドリルダウンして、そのカテゴリのアラームに関連するデバイスの一覧を表示できます。デバイスは、そのアラームカテゴリのイベント件数の多い順から少ない順にランク付けされます。このレポートを使用して、各アラームカテゴリのイベントの大半に関連するデバイスを見つけることができます。

サンプル 9: 重要度とデバイス別 NNM イベント

このレポートは、重要度レベルの統計情報をステーションごとに集約します。このレポートを使用すると、1つの重要度レベルからドリルダウンして、そのレベルのアラームに関連するデバイスの一覧を表示できます。デバイスは、その重要度レベルのイベント件数の多い順から少ない順にランク付けされます。このレポートを使用して、各重要度レベルのイベントの大部分に関連しているデバイスを調べることができます。

サンプル 10: 重要度別エグゼクティブサマリー

このレポートは、重要度レベルあたりのイベント件数に関するデータをまとめます。結果はベンダーごと、およびカスタマごとに表示されます。**NNM** ステーションを選択してから、ベンダーおよび重要度レベルを選択してください。右のグラフに、この特定のデバイスおよびこの特定の重要度レベルのイベント件数の傾向線が示されます。また、カスタマおよび重要度レベルも選択できます。右のグラフに、この特定のカスタマおよびこの特定の重要度レベルのイベント件数の傾向線が示されます。このレポートを使用して、ある重要度レベルのイベント件数が増加しているか、減少しているかを調べることができます。

ネットワークノードマネージャ



詳細な可用性レポート

詳細な可用性レポートは、NNMステーション、ベンダー、カスタマ、およびデバイスタイプ別の可用性、MTTR、MTBF、総ダウンタイム、アウトレイジに関するレポートです。上のテーブルからNNMステーション、カスタマ、ベンダー、デバイスタイプを選択すると、日別、月別、年別の可用性メトリックが表示されます。

NNMステーション	ベンダー	カスタマ	デバイスタイプ
All	Unknown	Customer Unassigned	Unknown
ovpihp@india.hp.com ovpint@india.hp.com			

上で選択したNNMステーション、ベンダー、カスタマ、デバイスタイプの可用性メトリック

過去1ヶ月間 | 月別 | 年別 |

2005年5月1日 (日) - 2005年5月31日 (火)					
日付	MTBF (秒)	MTTR (秒)	可用性 %	停止時間 (秒)	総停止時間
29, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336
28, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336
27, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336
26, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336
25, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336
24, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336
23, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336
22, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336
21, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336
20, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336
19, 5	444.43	681.50	43.21	196,272	336

ネットワークノードマネージャ

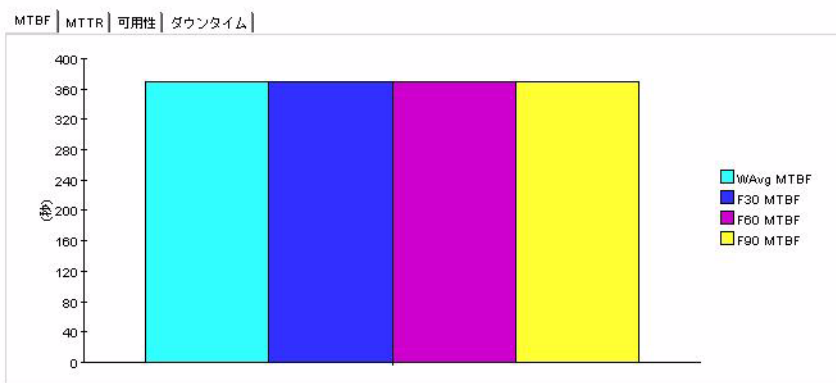


可用性: カスタマ別予測

ベースラインと可用性予測レポートは、平均無故障稼働時間(MTBF)、平均稼働時間(MTTR)、ダウンタイムに関するレポートです。カスタマとデバイスタイプを選択すると、MTBF、MTTR、可用性およびダウンタイムのベースライン値とともに選択する予測が表示されます。

カスタマ	デバイスタイプ
ABC	All
All Customers	Bridge
Customer Unassigned	Router
Halley	
Himalaya	
Ozzy	

選択したカスタマとデバイスタイプのベースライン vs F30、F60、F90メトリック



ネットワークノードマネージャ



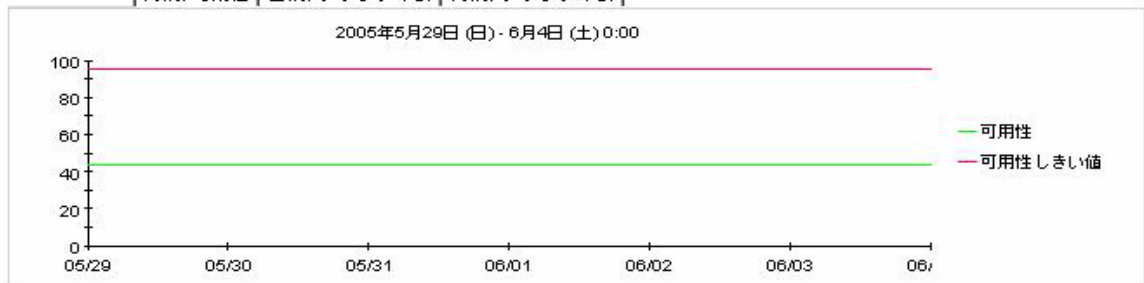
可用性: SLAレポート

可用性: SLAレポートは、可用性をしきい値と共にレポートします。さらに、総ダウンタイムもレポートします。カスタマとデバイスタイプ(またはベンダーとデバイスタイプ)を選択すると、可用性のサマリーがしきい値とダウンタイムとともに表示されます。

ベンダー	デバイスタイプ
AAA	All
All	Bridge
DEF	Computer
HP	Router
Unknown	

選択したベンダーとデバイスタイプの可用性とダウンタイムの詳細

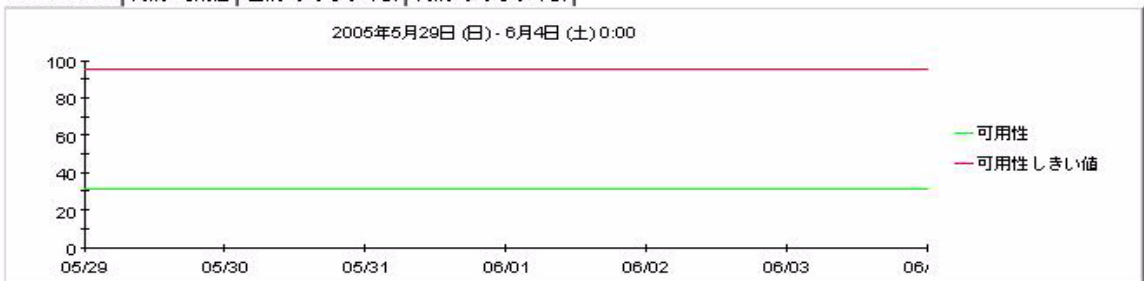
日別: 可用性 | 月別: 可用性 | 日別: ダウンタイム | 月別: ダウンタイム |



カスタマ	デバイスタイプ
ABC	All
All Customers	Bridge
Customer Unassigned	Router
Halley	
Himalaya	
Ozzy	

選択したカスタマとデバイスタイプの可用性とダウンタイムの詳細

日別: 可用性 | 月別: 可用性 | 日別: ダウンタイム | 月別: ダウンタイム |



ネットワークノードマネージャ

ベンダー別エグゼクティブサマリー



ベンダー別エグゼクティブサマリーは、選択したNNMステーションとベンダーについて、カテゴリおよび重要度に基づくイベント数をレポートします。上部の表からNNMステーションとベンダーを選択すると、対応するイベント数の月別サマリーが表示されます。

NNMステーション

ovpihpt6.india.hp.com
ovpint6.india.hp.com

ベンダー

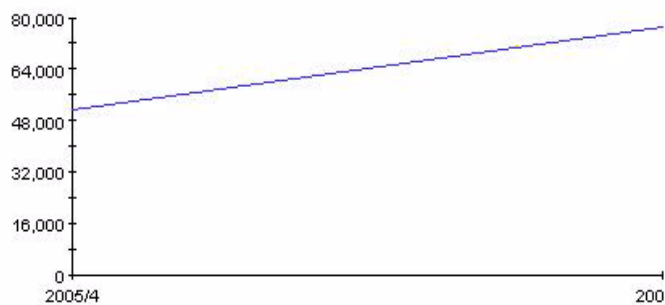
AAA
All
HP
Sun

カテゴリ

All Categories
Error Alarms
LOGONLY
Status Alarms

カテゴリ別サマリー(月別)

2004/12 - 2005/06



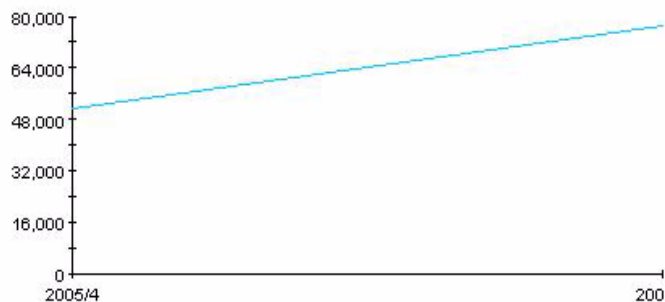
— イベント総数: ovpihpt6.india.hp.com

重要度

All Severities
Critical
Major
Minor
Normal
Warning

重要度別サマリー(月別)

2004/12 - 2005/06



— イベント総数: ovpihpt6.india.hp.com

ネットワークノードマネージャ



NNMステーション別イベントサマリー

NNMステーション別NNMイベントレポートは、NNMステーション別イベント数を示します。下のテーブルからNNMステーションを選択すると、そのイベント数のサマリーが表示されます。

NNMステーション

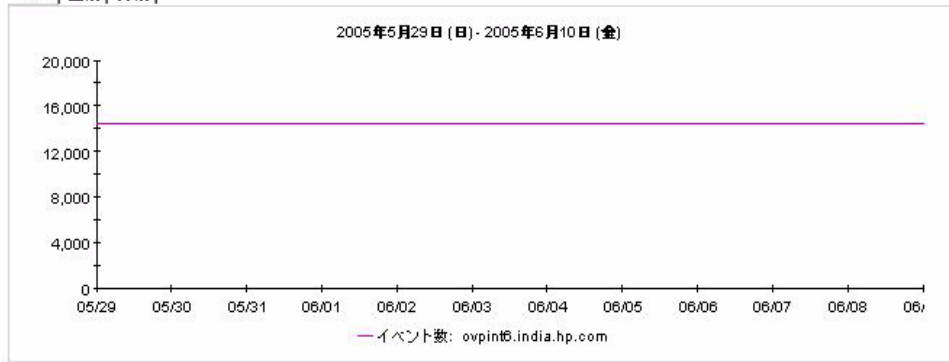
All

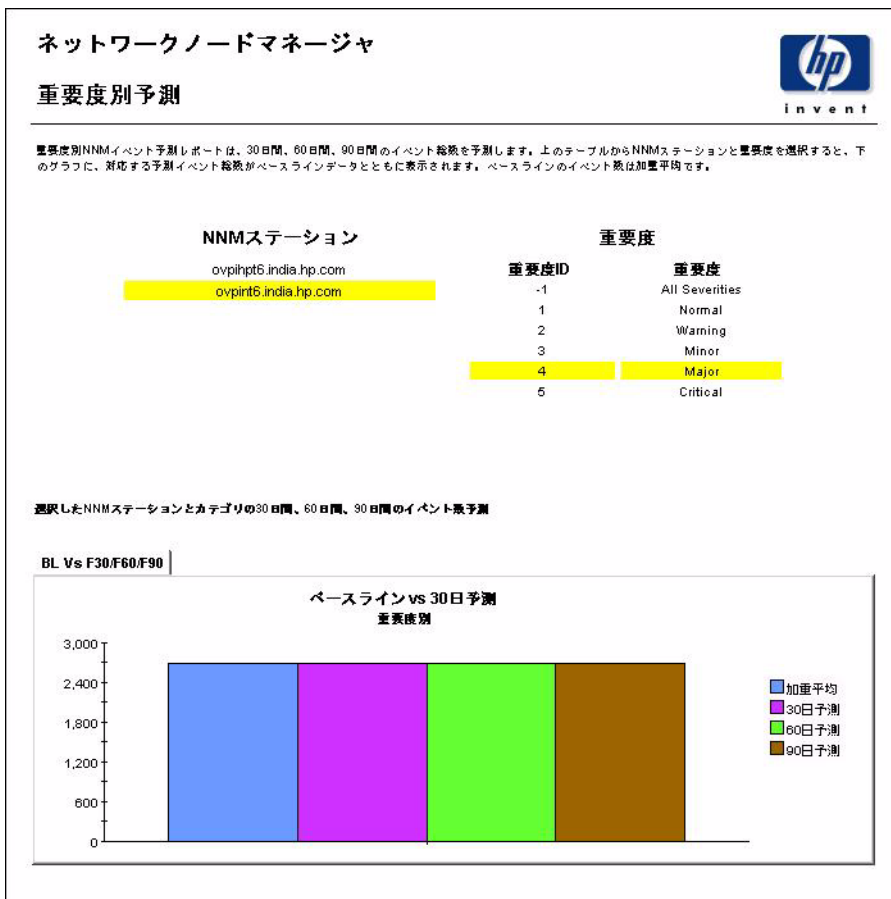
ovpihpt6.india.hp.com

ovpin6.india.hp.com

選択したNNMステーションのイベント数

日別 | 週別 | 月別





ネットワークノードマネージャ



ホットスポット: デバイス別トップ20

トップ20ホットスポットレポートは、日別、週別に集計した生成イベント数上位20のデバイスをレポートします。

NNMステーション

重要度

ovpihpt5.india.hp.com	重要度 ID	重要度
ovpint5.india.hp.com	-1	All Severities
	1	Normal
	2	Warning
	3	Minor
	4	Major
	5	Critical

選択したNNMステーションと重要度のイベントを最も多く生成している上位20のデバイス

日別 | 週別 |

最も多くのイベントを生成しているトップ20デバイス
2005年6月9日 (木) [Asia/Tokyo]

デバイス	イベント数
All Nodes	768
acapulco.grenoble.hp.com	288
oxpin99.india.hp.com	192
tunga.india.hp.com	192
dhanush.india.hp.com	96

ネットワークノードマネージャ カテゴリとデバイス別NNMイベント



カテゴリとデバイス別NNMイベントレポートは、カテゴリとデバイスごとにグループ化したイベント数を表示します。上のテーブルからNNMステーションを選択すると、カテゴリのリストが表示されるので、その中からカテゴリを選択すると、月別、週別、選択したNNMステーション別に集計されたデバイス別のイベント数が表示されます。

NNMステーション

ovpihp5.india.hp.com
ovpin5.india.hp.com

カテゴリ

カテゴリID	カテゴリ
-1	All Categories
1	LOGONLY
2	Error Alarms
3	Threshold Alarms
4	Status Alarms
5	Configuration Alarms

選択したNNMステーションとカテゴリのデバイス別イベント数

日別 | 週別 | 月別 |

デバイス別イベント数 2005年6月9日 (木) [Asia/Tokyo]	
デバイス	イベント数
All Nodes	864
ovpin9.india.hp.com	576
dhanush.india.hp.com	288



重要度とデバイスタイプ別NNMイベント

重要度とデバイスタイプ別NNMイベントレポートは、重要度とデバイスタイプごとにグループ化したイベント数を表示します。下のテーブルからNNMステーションを選択すると、NNMステーションに属するノードの重要度リストが表示されます。上のテーブルから重要度を選択すると、月別、週別、および選択したNNMステーション別に集計されたデバイスタイプ別のイベント数のリストが表示されます。

NNMステーション	重要度	
ovp1hpt6.india.hp.com	重要度ID	重要度
ovpint6.india.hp.com	-1	All Severities
	1	Normal
	2	Warning
	3	Minor
	4	Major
	5	Critical

選択したNNMステーションと重要度のデバイスタイプ別イベント数

日別 | 週別 | 月別 |

デバイスタイプ別イベント数	
2005年6月9日 (木) [Asia/Tokyo]	
デバイスタイプ	イベント数
All	950
Router	576
Bridge	384

ネットワークノードマネージャ 重要度別エグゼクティブサマリー



このエグゼクティブサマリーレポートは、ベンダーおよびカスタマごとの月別のイベント数を報告します。また、重要度別に集計されたイベント総数の加重平均を使用して、30日間、60日間、90日間のイベント総数も予測します。必要に応じて上のテーブルからNNMステーションを選択すると、その詳細が表示されます。

NNMステーション

ovpihp8.india.hp.com
ovpint8.india.hp.com

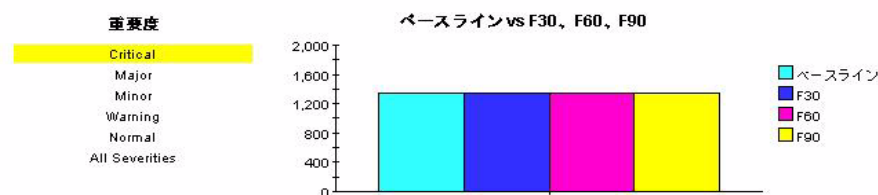
選択したNNMステーションのベンダー別サマリー(月別)



選択したNNMステーションのカスタマ別サマリー(月別)



重要度別イベント総数予測



A

Availability フォルダー , 8

C

Common Property Tables, 14

Consolidated(フォルダー), 9

E

Event フォルダー , 8

H

hourly_NNM_Avail.pro, 29

hourly_NNM_Event.pro, 29

HTTP ポート番号 , 26

N

NNM ステーションの削除 (フォーム), 21

NNM リストの追加または更新 (フォーム), 19

P

Product manuals search (Web ページ), 10

S

Severity フォルダー , 8

あ

アラームカテゴリ , 8

アラームカテゴリの削除 (フォーム), 24

一括インポート , 18

か

カスタマ固有のレポート , 9

カテゴリ情報の追加または更新 (フォーム), 22

可用性しきい値 , 24

可用性しきい値の更新 (フォーム), 25

グループフィルター , 9

た

デモパッケージ , 14

は

パッケージの抽出 , 14

パラメータの編集 , 9

ビューの変更 , 19

ポーリング間隔 , 20

ポーリング粒度 , 20

